

平成29年度 全国学力・学習状況調査について

身延町教育委員会

文部科学省では、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、調査の結果からみえてくる教育施策の成果と課題を検証しその改善を図り、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるため、毎年4月に小学6年生、中学3年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しております。

今年は4月18日に実施し、身延町では小学6年生50人、中学3年生57人が参加しました。身延町の子どもたちの現状と課題を踏まえて、児童生徒の学力向上を図っていきます。

なお、この調査結果については、国語、算数・数学と特定の教科のみ実施されたもので、全ての学力を測るものではないことをご理解ください。

児童生徒に対する調査

◎教科に関する調査

小学校… 国語 A、国語 B、算数 A、算数 B

中学校… 国語 A、国語 B、数学 A、数学 B

※ A問題は主として「知識」に関する問題（身につけておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容など）、B問題は主として「活用」に関する問題（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わること）が出題されております。

小学生（50人）		全国平均と比べて	県平均と比べて
国語	A問題	ほぼ同じ	ほぼ同じ
	B問題	ほぼ同じ	やや上回る
算数	A問題	ほぼ同じ	ほぼ同じ
	B問題	ほぼ同じ	ほぼ同じ

中学生（57人）		全国平均と比べて	県平均と比べて
国語	A問題	ほぼ同じ	ほぼ同じ
	B問題	ほぼ同じ	ほぼ同じ
数学	A問題	やや下回る	やや下回る
	B問題	ほぼ同じ	ほぼ同じ

※ほぼ同じ… ±5ポイント未満の違い

※やや上(下)回る… 5ポイント以上の違い

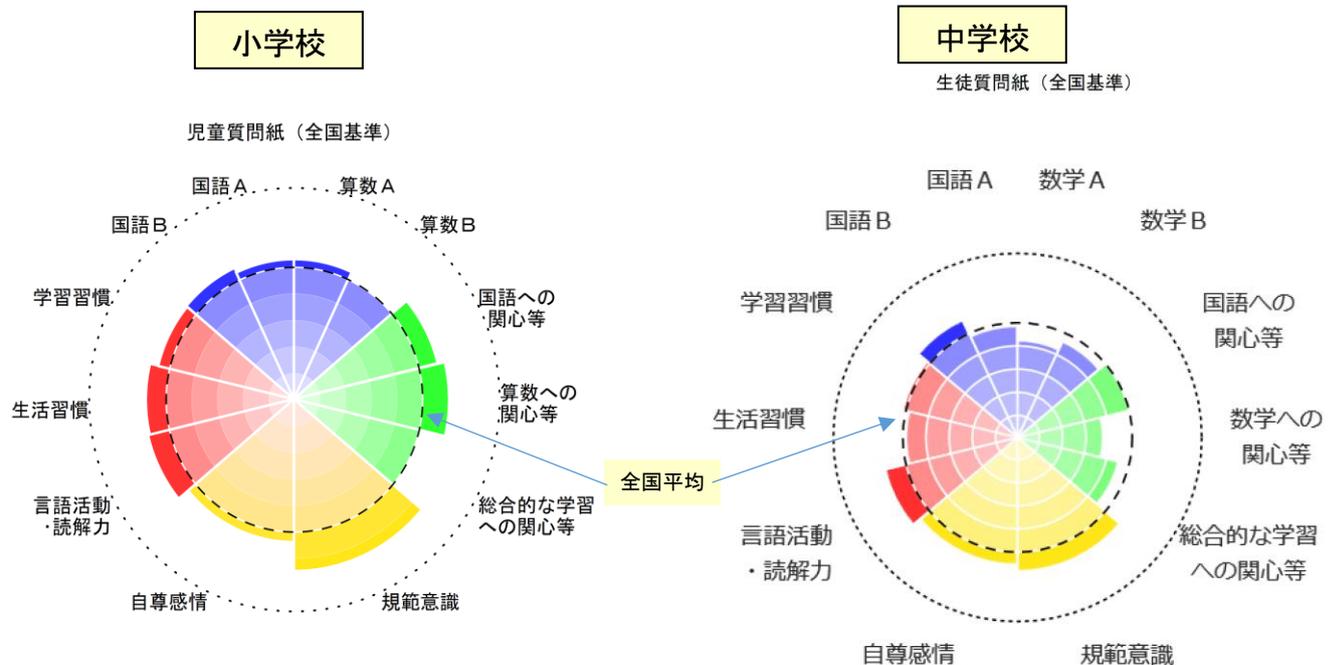
※上(下)回る… 10ポイント以上の違い

身延町の調査の結果は、概ね全国平均正答率と「ほぼ同じ」で、小学校国語Bでは県平均をやや上回り、中学校数学Aでは全国及び県平均をやや下回っています。

◎質問紙調査

「朝食を毎日食べていますか?」「将来の夢や目標をもっていますか?」「学校以外で1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか?」「今住んでいる地域の行事に参加していますか?」など92～94項目の設問に児童生徒が回答し、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して児童生徒の様子や意識を測るものです。

回答を総合的にまとめたものが下記の表のとおりです。校則やルールを守るなどの「規範意識」、考えや意見を発表したり聞きあったりするといった「言語活動・読解力」などが、全国平均を上回っており、「数学への関心」が全国平均を下回っています。



学校に対する調査

◎質問紙調査

学校における指導方法に関する取り組みや、学校における教育条件の整備の状況等に関して、114～116項目の設問に学校が回答するものです。

調査結果からみえる特徴は、地域の人材を講師としての活用や、校外学習等では地域の施設を積極的に活用するなど、地域の特性を生かし郷土愛を育む活動を取り入れております。授業の様子は、グループでの学び合いを積極的に行い、児童生徒の考えや思考を尊重した授業展開をしております。

また、「私語をしない」、「授業開始のチャイムを守る」などの学習規律が徹底されており、生活面では落ち着いた様子が見られます。

総括

児童生徒の質問紙のうち、「学校に行くことが楽しい」、「友達に会うことが楽しい」、「先生は良いところを認めてくれている」といった設問に対し、小中学校ともに全国平均を大きく上回る90%以上が肯定的な回答であり、概ね充実した学校生活を送ることができています。また昨年に引き続き、地域行事やボランティア等への参加といった地域学習、道徳教育に関する事柄も、全国平均を大きく上回っています。全国平均をやや下回った「数学A」については、基礎学力の定着とともに、「普段の生活で数学を活用する」、「社会にでたときの数学の必要性」など「数学への関心」を高める取り組みが必要です。

学校活動だけでなく、より一層の家庭学習の定着、向学館事業等における学習サポート、町における教育環境の整備等、引き続き学校、家庭、地域、町が連携して、確かな学力と豊かな人間性を育てていきます。